

資料12



No.1 タイトル：豊かな社会って？

(1)タイトル <教材名>

豊かな社会って？

(2)概要 <教材のあらまし>

「知的財産制度」が豊かな社会構築に貢献していることを理解させる。特に「産業財産権」が「物理的に豊かな社会構築」に貢献し、「著作権制度」が「精神的に豊かな社会構築」に貢献していることを理解させる。

(3)教科・科目

国語、社会(歴史分野・公民分野)、音楽、美術、技術、道徳、特別活動、総合的な学習の時間

(4)単元・教材名

知的創造活動の時間に展開される「知的財産権」のもつ社会的意義と貢献の理解

(5)所要時間 50分

(6)単元の目標 <指導目標>

- ・「知的財産」の概要と社会的な役割を知る。
- ・「産業財産権制度」と「著作権制度」の社会における役割の違いを知る。
- ・「物質文明」と「精神文明」をバランスよく融合させることが「豊かな社会」の構築につながることを知る。

(7)授業展開例

学習活動・内容	留意点(活動への働きかけ・支援等)
1. 導入(5分) 最近、よくニュースに出てくる「知的財産」とは何か、知っていることをたずねる。 「産業財産権」の内容と「著作権」の内容とに分類する。	・生徒の言葉で自由に発言させる。 ・出てきた内容を黒板に書き留め、内容を整理する。
2. 教材の演示① 問題提起 (10分) アニメーションから「知的財産」と「著作権制度」が生活を豊かにしているか、自分の意見をワークシートにまとめる。 シーン1・シーン2	・シーン1で画面を停止し、「知的財産」についての考えをまとめさせる。 ・シーン2で画面を停止し、「著作権制度」についての考えをまとめさせる。
3. 意見発表① (5分) ワークシートに書いた考えを発表する。	・生徒の代表的な考え方を箇条書きにする。
4. 教材の提示② 問題提起(10分) アニメーションから「豊かな社会」とはどのような社会か、自分の意見をワークシートにまとめる。 シーン3・シーン4	・シーン3で画面を停止し、「豊かな社会」とはどんな社会か、考えをまとめさせる。 ・シーン4で画面を停止し、著作権制度の持つ役割(機能)

5. 意見発表②検討(10分) ワークシートに書いた考えを発表する。 6. 教材の演示③解説 (7分) シーン5～7 「豊かさ」には「物理的」な部分と「精神的」な部分があることを知る。 7. まとめ (3分) 「産業財産権制度」は「物質文明」の発展に寄与し、「著作権制度」は「精神文明(文化)」の発展に寄与していることを知る。	ついて意見を書かせる。 ・生徒の代表的な考え方を箇条書きにする。 ・解説画面をみながら、「物質文明」と「精神文明」をバランスよく融合させることが「豊かな社会」の構築につながることを理解させる。 ・「知的財産」は物質的・精神的豊かさの発展に寄与し、著作権法第1条に「文化の発展に寄与する」と明言されていることを理解させる。
--	--

(8) ワンポイントアドバイス <指導の留意点、発展的な課題など>

- ・この章の後に学習する内容に関しては、主に「著作権」に関する法的(ルール)理解が中心になっている。社会生活を円滑に送る上で、知的財産権コンプライアンスは必要かつ重要である。しかし、単に「著作権とはなにか」というような権利制度の知識やスキルを与えるだけの権利教育となれば、独占や権利の主張のみといった社会性に反する思想を培う事にもつながりかねない。そこで、初めに「知的財産」の社会的役割を理解させ、健全な社会を構築する方法と秩序維持に「知的財産権制度」が必要不可欠であることを理解させ、「著作権」が果たしている社会的役割をしっかりと理解させるためにこの章を設定した主旨をご理解頂きたい。
- ・著作権法のみならず、特許法第1条でも「産業の発展に寄与する」と述べられており、「知的財産法」の精神は、「豊かな社会構築」を前提としていることを理解させたい。
- ・知的財産に関する教育は、現代社会の経済構造の変化に対応した教育である事を念頭に置く必要がある。すなわち、社会全体が従来からの製造業中心の経済構造から、知的産業を基盤とした知業社会へと、経済構造が急激にシフトしている。特に、日本はデジタルコンテンツ産業でめざましい発展を見せており、世界的にも注目されている状況から、生徒達にとって「著作権」に関する教育が社会に出てから必要なスキルになることを意識しておく必要がある。

(9) 参考資料 <参考条文・参考資料・参考 URL など>

- ・角田政芳著:「知的財産権六法第2版」三省堂
- ・川崎一彦著:「フィンランドに学ぶ教育と学力 第2章 福祉と経済を両立させる知業時代の教育システム」明石書店